

令和4年度

令和4年度内容見本

学習指導計画・記録

週案

指導者氏名

担当教科名

担任学級名

第

学年

組

学校名

内容見本

参考資料 (記入例)

2期制の場合は、前期・後期等を記入

今日のねらいは・どのように・何を使って・期待される生徒の変容は・評価の工夫は

(第 1 学) 期				第 7 週				5 月 9 日 ~ 5 月 15 日							
9 日(月)				10 日(火)				11 日(水)							
予 定	全校朝礼			専門委員会			校内研修会								
出 退	8 時 00分 18 時 00分			8 時 05分 18 時 00分			8 時 00分 16 時 45分								
第 1 時	中学校 国語			3 B 詩の鑑賞 (2 / 5) 目標：表現技法を見付け、説明しよう リズムを工夫して音読しよう			2 A 古典の世界 枕草子 (3 / 7) 目標：清少納言の季節感をまとめよう								
第 2 時	2 A			<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>本時のねらいは …本時の目標、指導内容 (単元名)、時数 (○/○)</p> <p>どのように …指導形態 (一斉、少人数、T.T、個別、習熟度別等)</p> <p>…指導方法 (討議、体験、課題、実験・観察等)</p> <p>…学習の場、安全指導等</p> <p>何を使って …教材 (教科書、資料、ビデオ、写真、CD・DVD、ワークシート等)</p> <p>…教具 (PC、CD・DVDプレイヤー、テレビ、電子黒板、実物投影機、実験器具、自作教具等)</p> <p>期待される児童・生徒の変容…ねらいとする児童・生徒の変容</p> <p>評価の工夫 …観点、規準、基準、場面、方法 (観察、小テスト、レポート、自己・相互等)</p> </div>											
第 3 時															
第 4 時	2 B														
昼 休 み															
第 5 時	生活指導部会 ・ふれあい月間の取組について ・衣替えについて												2 B 古典の世界 枕草子 (2 / 7) 目標：音読し、響きや調子を味わおう 情景描写の特徴を捉えよう		
第 6 時	学活 運動会に向けて ・学年種目のグループ分け ・全員リレーの走順決め			2 A // //											
	・専門委員会 15:45 ~ ・部活動 16:30 ~			・部活動 16:00 ~			・校内研修会 15:00 ~ 「特別の教科 道徳」についての理解を深める								
児 童 ・ 生 徒 の 様 子 、 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> GW明けで生徒たちの生活が落ち着かない。一人ひとりを観察し、個に応じた対応をしよう。 運動会に向けて、生徒の気持ちを盛り上げていこう。 			<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>ねらいの達成状況</p> <p>新しい発見 (生徒の素晴らしい行動や発想)</p> <p>本日の反省を踏まえて改善すべきこと</p> <p>連絡、打合せ、安全面で配慮すべきこと等</p> </div>									<ul style="list-style-type: none"> 部活動を通して、生徒の成長を生かす。 明日の道徳で、本日の校内研修会を踏まえて、議論する場面を生かす。 漢文は、生徒たちにとって難しい内容なので、主体的に取り組めるよう指導を工夫したい。 		

主幹教諭・指導教諭等押印欄

ければ努力と勇気は十分でない (ジョン・F・ケネディ)

校長印	○	教頭印 (副校長印)	○	○	本人印	○	予定時数計 実施時数				
12日(木)			13日(金)			中学校 日(土)					
内科検診 9:00～ 運動会全校練習 (5・6校時)			運動会学年練習 (3・4校時)			9:00～12:00 部活動練習試合 〇〇市立△△中学校					
8時 10分 17時 10分			8時 10分 18時 00分			8時 30分 12時 30分					
小学校 全科			算数			中学校 国語					
体育	3/5 目標：リズムをつかもう 安全：ハードルの立て方		算数	分数のたし算ひき算 (5/8) 目標：数直線を使って考えよう		2		4		13	
社会	6/15 わたしたちのくらしと工業生産 (6/15) 目標：工業地帯と工業地域の違い について発表しよう		家庭	ミシンを使おう (2/8) 目標：ミシンの使い方を確認し、 布を縫ってみよう 安全：手の位置、姿勢、周囲		3		3		12	
理科	5/8 流れる水のはたらき (5/8) 目標：水がおよぼす災害について 調べよう		運動会練習	学年練習 学年種目		3		2		11	
国語	4/10 わらぐつの中の神様 (4/10) 目標：大工さんがわらぐつを見付 けたときの気持ちを考えよ う		運動会練習	学年練習 表現		3		3		12	
昼休み	12:45 生徒委員会打ち合わせ			12:40 運動会の応援団の練習		3		3		15	
運動会練習	全校練習 入場行進 準備・整理運動等 大玉送り		国語	5/10 わらぐつの中の神様 (5/10) 目標：大工さんがわらぐつを買っ てくれたときの気持ちを考 えよう		0		0		0	
運動会練習	全校練習 開・閉会式 応援練習		音楽	3/5 静かに眠れ (3/5) 目標：音の重なりを感じよう		2		2		13	
	・自主研修会 授業力向上に向けて		委員会	・運動委員会 体育倉庫の整理・整頓		15日(日)		特別の 教道		5/5	
	・児童一人一人とよく話して 思っていることや考えてい ることを知り、導くことが できるように努めている。学 校生活全ての時間を大切に し、児童が成長できるよ うな声かけをしていく。			・行事に向けてクラスの気持 ちを合わせるため、教員の 働きかけの大切さを強く感 じる。 ・運動委員会では、役割を 明確に分担し指示すること で効率的に取り組ませると ともに、主体的に活動する 場面を設定することが大切 である。		日曜授業参観 (次ページ月曜日の欄に 記入)		特別活 動		4/4 17/17	
								学級活 動		1/1 5/5	
								総合的な 学習の時 間		2/2 10/10	

目 次

週案（記入例）	前見返
[中学校] 学習指導要領のポイント（令和3年度～）	2
[特別の教科 道徳] の内容	4
[資料] 観点別学習状況の評価等について（中学校）	6
[資料] 観点別学習状況の評価等について（小学校）	8
授業改善チェックリスト	10
[特別の教科 道徳] のチェックリスト	11
学年別標準授業時数・令和4・5年度七曜表・令和4年度社会暦	12
干支入年齢早見表・時候の挨拶	13
月別行事予定表（4月～3月）	14
年間指導計画	16
月別計画表	18
週案	30
今年度の成果と課題	138
メモ欄	140

※ この週案は、年間で54週分を記入できます。3学期制にも2学期制にも対応できるように学期の数字は印刷してありません。
各学校の実情に合わせて、学期名を記入して使用してください。

[中学校] 学習指導要領のポイント（令和3年度～）

1 今回の改訂の基本的な考え方

- ◎教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視。
- ◎知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する前学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成。
- ◎特別教科化など道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成。

2 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

- 「何ができるようになるか」を明確化

知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理。

- 我が国の教育実践の蓄積に基づく授業改善

我が国のこれまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化により、子供たちの知識の理解の質の向上を図り、これからの時代に求められる資質・能力を育んでいくことが重要。

中学校においては、これまでと全く異なる指導方法を導入しなければならないと浮足立つ必要はなく、これまでの教育実践の蓄積を若手教員にもしっかりと引き継ぎつつ、授業を工夫・改善することが必要。

[語彙を表現に生かす、社会について資料に基づき考える、日常生活の文脈で数学を活用する、観察・実験を通して科学的に根拠をもって思考する など]

3 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立

- 教科等の目標や内容を見渡し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実することが必要。また、「主体的・対話的で深い学び」の充実には单元など数コマ程度の授業のまとまりの中で、習得・活用・探究のバランスを工夫することが重要。
- そのため、学校全体として、教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを確立。

4 教育内容の主な改善事項

(1) 言語能力の確実な育成

- ①発達の段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成（国語）
- ②学習の基盤としての各教科等における言語活動（実験レポートの作成、立場や根拠を明確にして議論することなど）の充実（総則、各教科等）

「特別の教科 道徳」の内容

	中学校	小学校第5学年及び第6学年
A 主として自分自身に関すること		
自主、自律、自由と責任	(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	(1) 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。 (2) 誠実に、明るい心で生活すること。
節度、節制	(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする事。	(3) 安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。
向上心、個性の伸長	(3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	(4) 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。
希望と勇気、克己と強い意志	(4) より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。	(5) より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。
真理の探究、創造	(5) 真実を大切に、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。	(6) 真理を大切に、物事を探究しようとする心をもつこと。
B 主として人との関わりに関すること		
思いやり、感謝	(6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。	(7) 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。 (8) 日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。
礼儀	(7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。	(9) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。
友情、信頼	(8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	(10) 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
相互理解、寛容	(9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方がることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。	(11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。
C 主として集団や社会との関わりに関すること		
遵法精神、公德心	(10) 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。	(12) 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと。
公正、公平、社会正義	(11) 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。	(13) 誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。
社会参画、公共の精神	(12) 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。	(14) 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。
勤労	(13) 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。	
家族愛、家庭生活の充実	(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	(15) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。
よりよい学校生活、集団生活の充実	(15) 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。	(16) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。
郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	(16) 郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	(17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	(17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。	
国際理解、国際貢献	(18) 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	(18) 他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること		
生命の尊さ	(19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。	(19) 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
自然愛護	(20) 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。	(20) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。
感動、畏敬の念	(21) 美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。	(21) 美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。
よりよく生きる喜び	(22) 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。	(22) よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる事。

[資料] 観点別学習状況の評価等について（中学校）

I 観点別学習状況

学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、

「十分満足できる」状況と判断されるもの：A

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：B

「努力を要する」状況と判断されるもの：C

のように区別して評価を記入する。

II 評定

各教科の評定は、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を、

「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの：5

「十分満足できる」状況と判断されるもの：4

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：3

「努力を要する」状況と判断されるもの：2

「一層努力を要する」状況と判断されるもの：1

のように区別して評価を記入する。

評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際、評定の適切な決定方法等については、各学校において定める。

教科	観点	趣旨
国語	知識・技能	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。
社会	知識・技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめている。
	思考・判断・表現	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
数学	知識・技能	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。

月別行事予定表

4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月		
日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事
1	金		1	日		1	水		1	金		1	月		1	木	
2	土		2	月		2	木		2	土		2	火		2	金	
3	日		3	火	憲法記念日	3	金		3	日		3	水		3	土	
4	月		4	水	みどりの日	4	土		4	月		4	木		4	日	
5	火		5	木	こどもの日	5	日		5	火		5	金		5	月	
6	水		6	金		6	月		6	水		6	土		6	火	
7	木		7	土		7	火		7	木		7	日		7	水	
8	金		8	日		8	水		8	金		8	月		8	木	
9	土		9	月		9	木		9	土		9	火		9	金	
10	日		10	火		10	金		10	日		10	水		10	土	
11	月		11	水		11	土		11	月		11	木	山の日	11	日	
12	火		12	木		12	日		12	火		12	金		12	月	
13	水		13	金		13	月		13	水		13	土		13	火	
14	木		14	土		14	火		14	木		14	日		14	水	
15	金		15	日		15	水		15	金		15	月		15	木	
16	土		16	月		16	木		16	土		16	火		16	金	
17	日		17	火		17	金		17	日		17	水		17	土	
18	月		18	水		18	土		18	月	海の日	18	木		18	日	
19	火		19	木		19	日		19	火		19	金		19	月	敬老の日
20	水		20	金		20	月		20	水		20	土		20	火	
21	木		21	土		21	火		21	木		21	日		21	水	
22	金		22	日		22	水		22	金		22	月		22	木	
23	土		23	月		23	木		23	土		23	火		23	金	秋分の日
24	日		24	火		24	金		24	日		24	水		24	土	
25	月		25	水		25	土		25	月		25	木		25	日	
26	火		26	木		26	日		26	火		26	金		26	月	
27	水		27	金		27	月		27	水		27	土		27	火	
28	木		28	土		28	火		28	木		28	日		28	水	
29	金	昭和の日	29	日		29	水		29	金		29	月		29	木	
30	土		30	月		30	木		30	土		30	火		30	金	
/	/		31	火		/	/		31	日		31	水		/	/	

5

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

授業改善チェックリスト

教科〔 〕 単元名〔 〕

評価期間 年 月 日～ 年 月 日

自己評価（A：よくあてはまる B：あてはまる C：だいたいあてはまる D：あまりあてはまらない）

	チェック項目	自己評価
授 業 前	1 プレテストや観察等により、学習の進度や既習事項の理解度、学習への興味・関心・意欲等、生徒の実態把握ができた。	A B C D
	2 年間指導計画に基づき、学習内容及び評価の観点を明確にした授業計画ができた。	A B C D
	3 授業計画に基づいた適切な教材・教具の準備ができた。	A B C D
	4 生徒主体の授業展開に配慮した授業案（指導案）を作成することができた。	A B C D
	5 基礎的な知識や技能の定着を図るための授業案（指導案）を作成することができた。	A B C D
授 業 内 容 ・ 方 法	1 学習のねらいを明確にし、生徒に見通しをもって粘り強く取り組ませ、自己の学習活動を振り返らせ、主体的に取り組ませることができた。	A B C D
	2 基礎・基本の定着を図るとともに、学習課題への興味・関心・意欲を高め、分かる授業を展開することができた。	A B C D
	3 言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める授業展開が図れた。	A B C D
	4 個人学習やグループ学習等を導入し、学習形態の工夫を図り、生徒同士の協働や対話を通して考えを広げ深めることができた。	A B C D
	5 ICT等の情報機器の活用が図れた。	A B C D
	6 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を活用し、知識を相互に関連付け、情報を精査したり、問題を解決したりするなど、言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める授業展開が図れた。	A B C D
評 価 の 工 夫	1 評価の観点を明確にした評価計画に基づいた評価が実施できた。	A B C D
	2 目標に準拠した客観的な評価が実施できた。	A B C D
	3 指導と評価の一体化を図り、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等多様な活動を評価し、多面的・多角的な評価ができた。	A B C D
	4 生徒による自己評価や相互評価等を工夫し、生徒の学習意欲の向上を図れた。	A B C D
授 業 後	1 到達度の不十分な生徒に対して、補充的な学習等を実施できた。	A B C D
	2 到達度の高い生徒に対して、発展的な学習へと導く指導ができた。	A B C D

「特別の教科 道徳」のチェックリスト

評価期間 年 月 日～ 年 月 日

自己評価 (A：よくあてはまる B：あてはまる C：だいたいあてはまる D：あまりあてはまらない)

	チェック項目	自己評価
授業前	1 生徒の実態や反応を予測し、発問構成を考えることができた。	A B C D
	2 道徳科の目標と内容項目を理解し、授業案（指導案）を作成することができた。	A B C D
	3 他の教科や領域の学習との関連を考慮して、授業案（指導案）を作成することができた。	A B C D
	4 教科書を主たる教材として利用できるように、必要に応じ補助教材等を準備することができた。	A B C D
授業内容・方法	1 導入場面で、生徒の学習意欲や問題意識を引き出し、主体的な学習を促すことができた。	A B C D
	2 教師による範読など、提示方法の工夫により、教材のよさを十分に伝え、ねらいをつかませることができた。	A B C D
	3 中心発問と生徒の発言への問い返しの発問、中心発問の前後の発問を適切に行うことができた。	A B C D
	4 板書やICT機器、その他教材・教具を活用し、思考を整理し、理解を深めるようにすることができた。	A B C D
	5 適切な場面で話し合い活動を取り入れることで、多様な考えを促し思考を広げたり深めたりする学習活動に取り組むことができた。	A B C D
	6 学習課題や学習活動に応じて明確な指示を行い、個別の声掛けや机間指導をすることができた。	A B C D
	7 ワークシートや道徳ノートを活用し、適切に書く活動を取り入れることができた。	A B C D
	8 終末場面で教師による説話や生徒の考えを適度に活用し、授業の余韻を大切に自己を振り返らせることができた。	A B C D
評価の工夫	1 生徒の学習状況と成長の様子を認め、励ます評価をすることができた。	A B C D
	2 一人一人の生徒の学習状況を評価するために、授業中の見取りや記録の工夫をした。	A B C D
	3 一人一人の生徒の学習状況を評価するため、ワークシートや道徳ノートの活用を工夫した。	A B C D

